

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175300241		
法人名	株式会社あすなろホーム		
事業所名	あすなろホーム北本		
所在地	埼玉県北本市中丸4-51-5		
自己評価作成日	平成21年12月1日	評価結果市町村受理日	平成22年4月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・住宅地で静か。 ・目の前に公園があり、四季を楽しめる。 ・広い屋上がある。 ・自分の親、または祖父母に、「してあげたいこと」を、行うようを心がけている。 ・相手の立場に立って考える事を心がけている。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>県内にグループホーム・デイサービスの施設を数施設運営しており、当施設は2階建ての3ユニット(1階に左右A棟・B棟、2階にC棟)である。隣接して大きな自然の残る公園があり、地域の人との交流の場ともなり、安全に散歩する事ができる。自分の親と同じように接する気持ちを忘れず「してあげたいこと」を共通の思いとして日々利用者に接している。各ユニットへの行き来が自由にできるため、利用者同士の交流も盛んである。又広い屋上があり、天気の良い日には日光浴はもちろんのこと散歩気分も味わえる。公園の落ち葉を集め、地域の農家へ堆肥の材料として持ち込み、代わりに農作物をいただく等地域とのつながりも大切にしている。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成21年12月23日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に、社の理念とホームの目標を唱和し、業務に入っている	「いつでも安心して生活できる家を提供します」「地域の中で信頼され、ふれあいのできる施設を目指します」という独自の基本理念のもと、家庭的な環境の中で利用者が暮らせるよう支援し、理念を共有し取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時、地域の方や、お花屋さんの店員さんに声をかけさせて頂いている。公園を散歩されている方には、顔を覚えていただいている。	自治会に参加している他、隣接の公園は、住民との交流の場として活用している。公園の落ち葉拾いで集めた枯葉を、農家へ堆肥の材料として持ち込み、代わりに農家で収穫した野菜をいただくといった交流も盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の家族の会に参加し、ホームでの様子を話したりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出された意見等は職員に報告し、ケアに活かせるよう努力している	定期的開催し、ホームからの報告事項を伝えるとともに、利用者の家族等からの意見は、運営推進会議にて意見交換をし、具体的に実践、検討している。検討後の改善策がさらなるサービスの向上に結びついている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス事業所連絡部会を開き、定期的に話し合いを持っている。また、事故報告書等の提出により、指導いただいたりしている。	市からの呼びかけで、他の同事業所(市内の4事業所)との連絡部会を年4回開いている。市との良い関係が保たれ、新しい情報も早く伝わっている。また、事故報告書の提出要求もあり、提出しやすい環境が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束についてはスタッフ同士話し合い、拘束しないケアに取り組んでいる。玄関の施錠に関しては、以前外へ出てしまったということがあった為、入居者の安全を第一に考え、玄関に鍵をかけている。	職員同士が常に言葉での拘束につながる「ダメ」を言わない努力・目を離さない努力・入所者の動きを良く見る、視野を広げる努力をしている。利用者の安全を最重要としながら拘束しないサービスに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加や、会社内での勉強会を通して学び、職員各人が努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族の要請を受け、書類作成の手伝い等の支援をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約に関する説明を行い、理解、納得していただいている。また、疑問等ある時は、その都度質問されるようお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	申し送りノートやミーティングで、職員同士共有し、解決策を話し合っている。また契約時に、相談・苦情窓口がホームや市、国保連にあることを告げている。御意見箱を設け、誰でも記入し投函できるようにしている	要望をいつでも聞くため、玄関には意見箱を用意している。以前の施設では部屋にこもっていた利用者も、入所時の希望から職員がパイプ役となることで、他の利用者と話ができるようになり、充実した毎日を過ごしてい	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2カ月に1回、全体会議と代表者会議をしている	ユニットリーダーと職員の会議・代表者同士の会議を行い、全体会議を2ヶ月に1回実施している。職員からの意見が反映され、リフト浴の導入が図られた。	反映されている面は多々あるが、職員との月1回位の個人面談を活用し、より幅広い意見をサービスに反映していくことを努めていく。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与時の評価。 理想の職場についてのアンケートや実践を心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の勉強会、年1回の事例発表を行っている。研修会や講習会等のお知らせを職員に知らせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会及び、北本市の地域密着型サービス事業所連絡部会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実施調査等を通して相談を受け、実践している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や来所にて、今までの経緯等聞きながら、不安を少しでも取り除けるよう、話を伺っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、家族の希望や思い、状況を聞き、必要としている支援が提供できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者もスタッフも、同じホームの生活者として、レクや日々の生活から学ばせて頂いたり、過去の出来事の話をお聴いたりし、信頼関係を大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、電話連絡、行事やレクの写真、様子をメモしたもの等を送付したりし、本人と共に支える関係作りを心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や連絡をとれる環境作りをしている。また、今まで通っていた病院に通院したりしている。	利用者の要望により、好きなお店に同伴する等個別に対応する場合もある。散歩で顔なじみになった住民とのコミュニケーションも楽しみのひとつになっている。家族とは手紙のやり取りができるような支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を考え、食事席など配慮している。スタッフが間に入り、入居者同士の会話が生まれるよう、声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	後々も、いつでも訪問して頂きたいとお話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人の意向に沿えるようにしている。困難な場合は、本人の立場に立ち、安心した生活ができるよう努めている。	思いや意向の把握に困難な場合は、利用者の表情やしぐさからその思いを汲み取ったり、自己決定しやすいような問いかけを心掛けている。気がついた事は業務日誌に細かく記入し、支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実施調査等で、本人や家族から情報を得ている。また、日々の生活の中で、本人や家族から伺ったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、介護記録、カンファレンス等で情報を共有し、把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族より情報をいただいたり、スタッフ間でカンファレンスを行い作成している。	3ヶ月に1度の担当者会議を開き、様々な視点からアセスメントを行い、介護計画の見直しを実施している。家族へは郵便にて会議の内容を伝える等文書でも連携を図っており、信頼関係を築いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録とケアプラン実施表の記入をもとに、情報を共有しているが、気づき、工夫の記録がない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やニーズに合わせ、柔軟に対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練の実施。行事の際のボランティアの要請。趣味を通じてのボランティアをお願いして、その方を交えての他の皆様方が会話を楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族・本人の希望で、通院されたり、提携医が月2回程、訪問診療を行っている。	夜中に通院しなくて済むように、日頃から利用者をよく観察し、健康維持に留意している。体調に変化がみられた場合、通院介助をする等迅速な対応をしている。緊急時は24時間対応のかかりつけ医もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職と介護職が相談、協力しながら日常の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話等にて相談し、情報交換に努めている。また、職員が見舞いに行き、病院での様子を把握するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、かかりつけ医と話し合い、方針の共有に努めている。	ターミナルケアの事例はないが、今後を見据えて、職員が一丸となり看取りのできる体制作りに励んでいる。又、「他施設等のターミナルケア例」を参考に研修を行い、職員の精神的ケアについても配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習や、勉強会を行い、急変時の対応に備えているが、全ての職員ができるようにはなっていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者を交えての避難訓練を定期的に行っている。運営推進会議を通して、自治会の方々に協力をお願いしている。	災害対策として、自治会への協力体制が取れており、地域住民の支援も整っている。防災訓練・救命救急の訓練も利用者、職員、住民の参加により、地域ぐるみの安全対策に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった声かけや、言葉を選んでいる。指示的にならぬよう配慮している。	利用者および家族からの聞き取りから、利用者一人ひとりの対応に心がけ、個人を尊重した言葉使いを徹底する等対応に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えを聴き、共感し、思いを言いやすいよう働きかけている。思いを告げられない方には、その方の立場で考えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の流れは決まっているが、本人に自己決定していただくようにしている。コミュニケーションを図りながら、楽しく充実した一日を過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフにより、定期的にヘアカットしている。毛染めの訴えがあった場合、スタッフが対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューの素材について話をしたり、スタッフが皆様と共に片付けをしている。お誕生会などには、希望を聞いてお寿司を食べたり、外食したりしている。	栄養バランスを考えた食事の提供を行っている。盛り付け・配膳・食後の片付け等は、自主性を重んじて一緒に行っている。誕生会には、入所者の希望の食事を提供し、食事の楽しみを演出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は、月1回の体重測定により加減したりしている。 水分摂取は、ご本人の好みを考え、確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人に合わせ、声かけ、見守り、介助を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時にトイレ誘導を行い、食前や食後にもトイレの声かけや、誘導を行っている。	時間を見ながら定期的にトイレ誘導している。利用者の尊厳とプライバシーの配慮に徹している。又、自立支援という観点からあまり手を出しすぎず、見守ることも心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めにとって頂き、毎日の排便に心がけている。下剤使用者は、医師の指示にて様子に応じ調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴は体に負担となってしまう方、1日おきの入浴を希望される方など、一人ひとりの要望に対応できるよう、本人と相談したり、日々の体調を考慮しながら入浴が心地よいものになるよう支援している。	毎日の入浴を基本としているが、利用者の要望や体調を配慮して、入浴を計画している。希望しない利用者には衛生面を配慮して、自己決定を重んじながら自然な流れで誘導し、多様な接し方で入浴できるよう対応している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不安等で眠れない方には、しばらく一緒にいたり、話しをして、安心していただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬リストを作り、誰でも確認できるようにしている。医師の指示は、申し送りノート等を使い、職員が共有できるようにしている。服薬マニュアルや、毎月の服薬委員会にて、事故の予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、掃除等お手伝い頂いたときは、必ずお礼を言うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望がある時のみではなく、スタッフから「天気が良いので」など声かけをし、散歩やベランダなど、外の空気にふれて頂けるよう心がけている。 本人様の希望により、定期的に外出される方もいる。	天気の良い日は、隣接した自然の多い公園への散歩・屋上での日光浴等計画的に行っている。又、家族の要望、協力により外泊・外食も行っている。絵を描いている利用者には、画材購入の買い物に職員と外出することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できないため、一括管理している。希望により、ジュース代程度のお金を所持している方や、外出時に財布を渡している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状など、家族や友人に書いていただいている。希望があれば、自ら電話をかけたり、かかってきた電話は本人に取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーの壁には、レクで利用者が作った季節の物を貼ったり、飾ったりしている。玄関には、季節の物(雛人形・五月人形・七夕飾り・クリスマスツリーなど)も飾っている。	共有空間は手作りの物や季節を感じる装飾品がきれいに飾られていて、暖かみを感じる。全体的に清掃が行き届いているため、清潔感がある。又、室温にも気を配り、健康管理につなげている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂横に、ソファを置き、フリースペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、好みのものを持参して頂き、居心地よく過ごしていただけるよう支援している。	居室は持参のものが整然と置かれていて、安心安全な空間を作り出している。清掃は自立支援の観点から、できるだけ利用者自身をお願いしている。室温の調整は職員が細かくチェックし、居心地のよさを演出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、バリアフリーになっている。必要に応じ、居室にポータブルトイレを設置している。また、場所を示す矢印をつけたりしている。		